

先輩保護者からの ワンポイントアドバイス

H十九年度卒
保護者



本校卒業生の先輩保護者の方々から、受験生を持つ保護者の体験談をご寄稿いただきました。

実体験に基づいた貴重なお話やアドバイスをありがとうございます。参考にさせていただきます。

「受験費用二百万円」と、真しやかに囁かれていることをご存知でしょうか？

半信半疑で、長女の受験費用（入学迄）を控えたところ、ほぼ二百万円！長女は、関東の国立

大へ後期で入学。浪人はしないと言うので、私立大二校を受験。本校入学時、「とにかく貯金を」と言われた事が納得できました。

無知な受験を終え、感じたことを述べてみます。偶然にも私立大と国立大の試

験日程が近く、一度の滞在で二校受験できたことは、旅費の節約になりました。あと、下宿先ですが、後期合格発表時では物件が非常に少ないということ。三年の十二月の面談で、下宿先の仮押さえを勧められたことが、やっと理解できました。気に入った物件があれば、仮押さえをお勧めします。勇気が要りますが、それと、後期試験まで諦めないこと。私立大の合格が安心にはありませんでしたが、前期不合格の時点で、後期試験を諦めかけたことは事実です。担任の先生の後押しで後期試験に臨んだわけですが、意外な程に倍率が下がっており驚きました。最後まで粘るべきです。前期で大きなチャレンジをさせ、後期を手堅く出願させる手腕に改めて敬服したことでした。目標が定まらない進学でしたが、今、視野が広がりました。長女を見て進学させて良かったと思っています。

受験体験記と言われても、高校の先生に感謝をしながらおすがりしたことと出費面しか思いつきません。あくまでも、一例としてお受け取りください。

H二十年度卒 保護者

三月に娘の受験を体験しました。初めてのことで親子ともども戸惑いましたが、なんとか合格することができ、今は毎日元気に大学に通っています。受験生の親の心構えについて自己反省をこめて、参考にしていただければと思います。

もつとも重要なのは「達観」。小学館・大辞林によると達観とは「物事に超然として、悟りの心境に達すること」とありますが、これはまさに実感で、結局「なるようになる」、いや、「なるようにしかならない」。

国公立大の受験にとってセンター試験は決定的に重要な意味を持ちます。一発勝負のペーパーテストですから、成功も失敗もあるわけですが、結局は高校三年間でやってきたことの積み重ねであり、まぐれはありません。

一番の反省点はセンター試験や私大の試験が終わり帰宅した娘に「どうやった、どうやった」としつこく聞いてしまったこと。

娘からは「微妙」とか「別に」など、煮え切らない返事しか返ってきません。

だが、娘にすれば不本意な感触であったにもかかわらず、親の無神経な問いかけで、不安をいっそうあおり追い込んでしまいました。聞いたところ、点数が上がるわけなし、親以上に受けた本人が不安なわけですから、無駄にあれこれ聞かず、どーんと構えることが肝要でした。

今の入試システムは複雑怪奇としか言いようがなく、本人や学校まかせにするのではなく、家族が子どもと一体になって情報を共有して考えることはとても大切です。とりわけ母親任せにするのではなく、父親が適切にかかわっていけるかどうかはポイントになると思います。

センター試験以降はウルトラ級に能天気な娘も、私大の不合格が続きかなり思いつめていました。不合格を重ねると人格を全否定されたような孤独感にさいなまれますが、まして十八歳。その重圧たるや想像を絶するものがあります。こればかりは代わってやることはできません。だからこそ、冒頭強調した「達観」の精神が大事になってくるのです。

娘からは「微妙」とか「別に」など、煮え切らない返事しか返ってきません。



大学訪問してきました♪
平成二十一年七月四日、岡山大学・川崎医療福祉大学を訪問してきました。各大学に進学した本校OBとの交流もある盛沢山の内容でした。

県外研修に参加して、初めて参加させて頂きましたが、思っていた以上に良かったと思える一日でした。

子どもを国立大に行かせてあげたいという思いから、必ず行かせよう、行くだけの価値が充分あると確信しました。経済的な事情から子どもには国立一本!!と言っておりませんが、全く違う大学を見せてもらった事で、多くの大学を自分の目で見て、調べて自分の目指す所にピタッと合った大学を選ぶことが大切だと思い、とりあえず国立一本!とうるさく言うのをやめることにしました。

話を聞かせて頂けたことで視野が広がり、とても良かったです。



岡山大学附属図書館前にて